

商業プラントの建設と稼働

就職してあっという間に二十数年がたった。数年前に開発部門から製造部門へ異動して以来、製造技術の仕事をしている。「モノづくり」は大変なこと多いが、まさに製造業であり面白い仕事である。プラントは「生き物」であり日々新しい発見がある。

今から思えばこの仕事に至った発端は、子供のころに流行した宇宙物のアニメであった。真剣に乗組員になる気になっていたがさすがにかなわなかった。しかし高校で理系を選択し、工学部に進学した

凛としていきる

理系女性の挑戦

好奇心もって楽しむこと

ことから多少は影響があったのだと思う。

製造部門への異動は取り組んでいた新しい商業プラントの建設と稼働が契機であった。最初の製品が出来上がった時の喜びと安堵は

鮮明に覚えている。設計に携わった者として、試運転を始めるまでは「計画通りに工程が進むか」「良品が得られるか」が関心事であつたが、実際に原料の供給を始めると「とにかく事故が起

ころ最後までモノが流れてほしい」と祈っていた。何と言っても取り扱う量が実験室やパイロット設備より段違いに多い。職場のメンバーと

そういう面でも最初に製品が出てきた時は非常に「安堵」した。これも製造現場の醍醐味である。

この間、2人の息子を出生し保育園と学童保育に通い続けた。当時は「送迎」が一番の関心事であつたが、職場の上司や同僚の理解、夫や両親、保護者仲間の協力で乗り切れた。当然、保育園の先生は私よりも育児にたけており、トイレからお箸の使い方までつけてもらい感謝しきりである。学童保育でも指導員が「第2の家

庭」として保育してくれ、送迎も家族や保護者仲間が助けてくれて本当に助かった。

この通りかなり適当な母親ぶりだが、子供たちはスクスクと自由人に育っている。帰宅すれば「今から宿題しようと思つてん」とわざとらしく計算ドリルを広げる小学生の二男と、風呂上りに制服を着て着替えの手間を省く高校生の長男。誰に似たのかと思うがこれも子育ての面白さである。



結局、周囲の人を助けたら助けられたり繰り返して今がある。仕事も子育てでも、面白いこともそうでないことも、好奇心をもつて楽しむことが信条である。これが家庭と仕事を両立し続けていくコツかもしれない。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(J-WFF)

▽ △

力ネカ 高砂工業所 特殊樹脂製造部 技術担当課長

吉見 知穂

△ フロフィール 91年 神戸大学工学研究科化学工学専攻修了。同年4月鐘淵化学工業(現カネカ)入社。生産技術研究所を経て現職。

